



説教要旨 「その苦しきは報われる」

ルカによる福音書 14章 1～14節

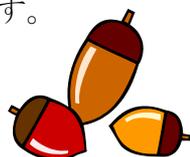
イエス様がファリサイ派の人に食事に招かれ、その家へ入られた時の出来事です。ファリサイ派の人々は、イエス様が安息日の律法を破って水腫の人を癒すかどうか、様子をうかがっています。イエス様はそのような人たちに「安息日に病気を治すことは律法で許されているか、いないか」(3節)と、問いかけられますが彼らは黙っているだけです。その沈黙の中でイエス様はこの病人の手を取り、癒されたのです。その上で彼らにこう言われます。「あなたたちの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか」(5節)。彼らはこの問いにも何も答えられないまま場面は進みます。

食事の席に招待された人々が、できるだけ上席に着こうとしている様子をイエス様は目にされました。そこでイエス様は、一つのたとえを語られました。婚宴において、勝手に上席に座ってしまうと、自分よりも身分の高い人が招待されていて、「すみませんがもう少し下の方に移って下さい」などと言われ恥をかく。むしろ末席の方に座っていて、招待した人に「あなたはもっと上席に着いて下さい」と言われる方が人々の前で面目を施すことになる。「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」(11節)というのです。

そしてイエス様は自分たちを招いた人、ファリサイ派の議員言われるのです。「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい」(13節)と。このように貧しい人を招くことをこそ、神様は喜んで下さるのだ、というのです。

神様が招き、救いにあずかせて下さるのは、自分の力でいっばしに生きていけると思っており、神様のために何かをすることができると自負しているような者ではなくて、自分の力ではどうていやっていくことができず、神様のために何かをすることなどどうていできない、と思っている者です。

神様に何もお返しすることができないわたしたちをこそ、神様は今、招いて下さっているのです。



(2019・10・6 説教者：稲垣真実)